

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0980700678		
法人名	社会福祉法人くすの木会		
事業所名	グループホームいずみ		
所在地	小山市大字高橋128-1		
自己評価作成日	令和5年9月4日	評価結果市町村受理日	令和5年11月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和5年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム設立20周年を迎え、今年度の事業目標は「今この瞬間を大切に、みんなが笑顔でいられるように、幸せでいられるグループホームを目指す」と、一瞬一瞬を大切に、利用者・職員とも日々楽しく生活しております。家庭生活の延長とし利用者一人ひとりを理解し利用者にあった支援をしております。田園風景をみながら季節を感じて頂ける環境となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市北東部の田園地帯にあり、自然豊かで閑静な環境にある。同法人の運営する特別養護老人ホーム等が隣接しており、緊急時等には協力が得られるなど連携が図られている。職員は家庭的な雰囲気大切に環境づくりに努めるとともに、法人理念や事業所目標を念頭に置き、日々支援に取り組んでいる。食材は職員が買い出ししているほか、宅配も利用して調達し、3食とも手作りの食事を提供している。職員も介助をしながら一緒に食事をするとともに、テイクアウトやおやつ作りも取り入れるなど、より楽しみとなるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の昼礼時、会議前に唱和し全員で確認しながら日々の業務に努めている。	法人理念をはじめ事業所目標、法人の全体研修会で作成したスローガンを玄関、事務室に掲示するとともに、昼礼時や会議時には理念を唱和して意識づけをしている。職員もこれらを念頭に置き日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染対策により直接の交流はできないが、保育所へ小物やうちわを製作し届けて間接的に交流を図っている。	コロナ禍以前は法人の夏祭りに地域の方や保育園児等の参加があり、交流を図っていたが現在は難しい状況にある。保育所との関わりを継続するため、小物入れなどを製作して届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献事業部門がオレンジカフェやおとな食堂を実施している。認知症に関する相談や、介護サービスに繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面送付や対面会議にて開催。地域の方や、包括支援センターの参加いただき、サービスの状況や報告・事故苦情報告等を行い意見を頂いている。	地域住民代表、派出所の警察官、消防署員、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2か月ごとに開催している。これまではコロナ禍のため書面での開催であったが、7月からは対面で行っている。委員から出された意見や感想を、運営に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険運営上相談し、助言・指導を頂いている。	市の担当者とはわからないことや疑問があれば、その都度相談して助言を得るなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでおり、手引書をもとに勉強会を実施している。玄関等は施錠していない。	法人の研修会や会議を通して身体拘束をしないケアについて理解を深めている。穏やかな職員が多く、上手に声掛けをするとともに、玄関も施錠せずに、精神的な抑圧がないケアにも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で、各事業所で高齢者虐待発見チェックリストを活用し、自主点検を行い、虐待の予防に繋げている。		

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を活用している方はいない。会議において成年後見制度については勉強会をおこなったが、日常生活自立支援事業については知識があまりない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を入居前にお渡しし、一度内容を確認していただき、入居日に詳しく説明をし、理解していただき、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にLINEを登録していただき、日頃の状況や、必要な日用品等の依頼をしている。顧客満足アンケート(年1回)を実施し、サービスの向上へと繋げている。	家族からは面会時に話を聞く機会を作っているほか、毎年家族アンケートを実施し意見等を運営に反映するよう努めている。利用者には日頃の支援の中で丁寧に話を聞くよう心掛けている。家族にはLINEを活用して事務的な連絡のほか、日頃の様子を伝えたり写真を送付するなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の会話にて意見や提案をくみ取り、業務改善や風とおしのよい職場環境をつとめている。管理者で解決できない内容は理事長に相談している。	管理者は日頃から意見等を表しやすい雰囲気づくりに努めている。環境整備や利用者のケアの方法などについて提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標を掲げ、目標達成できるように向上心につながるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者の担当や行事・勉強会を担当制にし自ら発案し、分からないことや計画に対して助言を受けたり、職員同士でのやりとりでいろいろなことが身につくようになっていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でお茶会を開催し、職員との交流をはかったり、特養での勉強会に参加する事によってサービスの質の向上に取り組んでいる。		

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学をしていただき、雰囲気を感じていただいている。ご本人を知るために、生活歴や基本情報に記載していただき、職員全員で情報共有し支援へと繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や面接時にご家族やご本人の困りごとや心配事など傾聴し安心して生活できるように努めている。入居まもない頃は面会や電話報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時や面接時にグループホームでの生活が妥当ではない時は同法人内の施設サービスの提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来ることを声掛けしやっていたり、利用者から催促される時もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の予約がなく、来苑された時は、お声掛けし合って頂くなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人も高齢になり、また場所との関係性は現状は難しい状況となっている。	以前は、友人が来訪し特別養護老人ホームの喫茶室でお茶を飲むなどしていた利用者もいたが、高齢化やコロナ禍のため関係継続が難しい状況である。家族からの手紙の受け渡しや電話(LINE)の取り次ぎ等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間同士でしゃべりしたり、歌を唄ったりして楽しまれている。利用者同士が声掛けし、レクリエーション等楽しまれている。		

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去での退所がほとんどなため、その他の退所はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の状況に合わせて、希望や意向に沿うように職員間で情報を共有している。	入所時の面接記録や日頃の会話から思いや意向を汲み取り、連絡ノートを活用して職員間で共有を図っている。意思疎通の困難な利用者については表情やしぐさから推し量るとともに、職員間で話し合うなどして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接記録や、生活歴などご家族や担当ケアマネージャーに情報収集し経過等の把握に努めている。またご本人との会話など記録し情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のADL状況を把握し、生活の延長として出来る事は継続して行っていただき、残存機能を活用し、維持できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	法人のアセスメントを活用しご本人やご家族の思いを計画書を作成している。	モニタリングは職員が概ね3か月ごとに実施している。本人や職員の意見、文書により照会した家族からの意見・要望を踏まえ、兼務している特別養護老人ホームのケアマネージャーが作成している。状態が変わればその都度見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事や身体状況・認知症の状況を記録し情報を共有できるようにしている。また会議時に改善や対処方法を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診などご家族に付き添って頂くなど対応している。		

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「絹ふれあいの郷」へ鯉のぼり見学に出かけて地域の方々とふれあいが出来る様になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特養の嘱託医をかかりつけ医としている。定期受診は職員が情報提供として医療機関とのやり取りをしている。なにかあるときはご家族に連絡し、受診時に付き添っていただくことにより納得して頂ける。	利用者全員が特別養護老人ホームの嘱託医をかかりつけ医としており、定期的な受診は職員が同行支援している。体調の変化があった場合は家族に連絡し、付き添いを依頼している。訪問歯科の利用もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護職に急変時や体調不良時は状況を説明・相談し、指示を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者はなし。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期においては、ご家族に説明し、施設サービスへの意向や終末期では事業所で出来る事・出来ない事を説明し納得していただく。ご家族の意向の元、特養看護職や主治医に相談し適切な対応が出来る様になっている。	利用開始時及び重度化した場合には、家族に事業所で出来ること、出来ないことなどを説明している。医療的なケアが多くなった場合には、特別養護老人ホームや病院への移行を支援している。特別養護老人ホームの看護師の協力を得て看取った経験もある。	事業所としての看取りに関するマニュアルを整備するとともに、勉強会等で職員の知識を深められる取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の手引書に「急変時の対応について」の項があり、手引書をもとに研修をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期訓練にて日中・夜間を想定し、また水害や災害の訓練を実施。法人での協力体制は出来ている。	年2回法定の避難・消火訓練を特別養護老人ホームと合同で実施している。水害による避難訓練も予定していたが、延期となっている。水やレトルトカレー、ようかんなどの非常食も備蓄している。	夜勤専門職員も含め事業所独自で図上訓練等を実施するなど、より災害時の対応力を高めるような取り組みを期待したい。

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない声掛けをし、法人全体で丁寧な言葉遣いをするよう日々取り組んでいる。	研修会などを通し、法人全体でプライバシーを尊重するケアに取り組んでいる。利用者の呼びかけには「さん付け」としている。トイレ誘導時も耳元で小声で声掛けするとともに、失敗した時は周囲に気づかれないよう羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら、思いや希望を汲み取り、自己決定しやすいような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれのペースや自由に過ごして頂くよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの化粧品を使用したり、自分が着たい洋服を着て頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や行事食を取り入れている。利用者の咀嚼状態により食べやすいようにカットをしている。野菜の皮むきや、食事前の準備や下膳等片付けをしている。	食材は職員の買い出しや宅配を利用して調達している。特別養護老人ホームの献立を参考に、3食とも手作りの食事を提供している。職員も介助をしながら一緒に食事をしており、寿司や弁当のテイクアウトやおやつ作りも取り入れるなど、より楽しみになるよう支援している。利用者も野菜の皮むきなどできることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一緒に利用者と職員が食事をする事で、利用者の状態が把握できる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛けをし口腔ケアを行っている。就寝前は入れ歯を外し、口腔洗浄液を使用し清潔を保つようにしている。		

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、利用者の排泄パターンを把握し、声掛けしプライバシーに配慮した支援をしている。	排泄チェック表を活用し、利用者に応じて声掛け誘導している。全員がトイレでの排泄が可能で、ほぼ自立しており、個人に合わせてパッドやリハビリテーションパンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷水を飲んで、自然排便できるようにしている。また献立にヨーグルトや繊維質の食材を使用するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴していただいている。体調不良時は入浴日を変更している。1対1での介助だが利用者の身体状況により2対1で介助する時がある。	週3回、午後入浴としている。拒否傾向のある利用者には声掛けを工夫したり、シャワー浴とするほか、無理強いせず、翌日に対応するなどしている。浴槽の深さを調節する台や取り外しの出来る手すりを設置するなど、安全面にも配慮している。季節の菖蒲湯やゆず湯も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者によっては部屋の明るさや温度に配慮し、利用者の就寝時間で休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を常に確認できるようにしている。服薬の変更がある時は、口頭や連絡帳に記入し誤薬がないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品は生活の継続として支援している。レクリエーションの中で役割や楽しめるレクを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先で体操をしたり、感染対策をして季節の花を見に行くなど支援している。	コロナ禍以降外出の機会は少なくなっているが、法人からリフト車を借りて、道の駅等にドライブに出かけたり、個別に近くのアジサイや蓮池を見に行ったりしている。玄関先で体操したり、レクリエーションを多く取り入れるなどして気分転換を図っている。	

グループホームいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人所持に関してはご家族に相談のうえ持っていていただいている。お小遣い程度の金額を金庫に預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯を所持している方は自由に連絡を取り合っている。手紙が届いたら、ご本人にお渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保つように掃除は欠かさずしている。空調がききやすようにレースのカーテンを引いて温度をたもつようにしている。	リビングは床暖房となっている。エアコンや加湿器を使用して温湿度を管理し、過ごしやすい環境を整えている。テーブルには花、壁には季節の貼り絵や写真を飾り、居心地のよい空間づくりに努めている。清掃も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを配置しており、好きな場所でくつろいでいただいている。食事の座席において、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物を入居時に持ってきていただいている。居室にはカレンダーや、レクで制作したものや写真を飾ることで、自分の居室と分かるようにしている。	各居室はベッド、押入れ、ロッカー、洗面台、エアコン、カーテンが備えられている。利用者は布団やテレビなどを持ち込み、写真や製作品を飾るなどしている。季節の布団の入れ替えや衣替えはコロナ禍のため職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、トイレや自分の部屋がわかるような印をしている。		